

令和2年度事業報告

公益社団法人 小金井市シルバー人材センター

令和2年度事業報告

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

1. 概況

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が全世界で広がり、我が国においても感染症の拡大に伴い二度にわたる緊急事態宣言の発令や緊急事態宣言期間の不要不急の外出自粛やインバウンド需要の減少等から消費は落ち込み、さらに、国内の経済社会活動の抑制を余儀なくされ経済に甚大な影響をもたらしました。

また、緊急的な対応とは別に、いわゆる3つの「密」の回避やソーシャル・ディスタンスの確保が求められる中で、飲食店への営業時間の短縮・休業要請、各企業への労働時間の短縮や時差出勤やテレワークによる在宅勤務等により働き方が見直され、私達の日常生活のあり方や働き方も大きく様変わりしました。

令和2年度は第5次中期計画の4年目に当たり、当センターにおいても新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から就業の中止・制限や就業時間の短縮など余儀なくされ、契約金額、会員数、就業率とも計画目標値を達成することはできませんでした。

まず、契約金額については、公共部門2億847万円、民間部門1億9,600万円、合計4億447万円となり、対前年度比△6,338万円（△13.5%）の減となりました。また、令和2年度事業実施計画目標値4億8,600万円に対し△8,153万円下回りました。

また、当期一般正味財産増減額は△230万円の赤字となりました。

令和元年6月1日に小金井市と「リユース事業に関する協定書」を締結したリユース事業は、令和2年8月31日をもって終了することとなりました。

会員数の拡充の取り組みは、月2回の入会説明会と月1回の入会手続きを実施してきましたが、令和2年11月より入会会員の手続き等の簡素化を図るため入会説明会と入会手続きを1回で済ませられるよう改善を行ったが会員数の拡大に至りませんでした。

令和元年度末1,100名に対し、入会者81名、退会者131名となり令和2年度末1,050名、対前年度比△50名（△4.5%）の減となりました。

租入会は3.2%となり昨年比△0.2%の減となりました。

年間就業率は、83.6%となり令和2年度事業実施計画目標値91.0%に対し7.4%下回り、対前年度比87.0%に対し△3.4%下回りました。

小金井市自転車駐輪場の第3次指定管理者に引き続き、令和3年4月より第4次指定管理者の指定を受けることができました。

安全就業については、令和2年度安全就業対策方針を策定、安全管理体制の充実、事故防止措置、会員の健康管理、安全教育の推進、安全意識の普及・啓発に努めきました結果、傷害事故10件（前年度13件）、賠償事故4件（前年度4件）となりました。

「高齢者等見守り活動」の取り組みについて、平成31年2月6日に小金井市と当センターの間で協定の締結し、令和元年度に引き続きボランティア活動として高齢者などの見守り事業に取り組んできました。

当センター事務局が令和3年2月日より小金井市梶野町4丁目2番7号グランツ梶野2階に移転し、令和3年3月にふすま班、リビングサポート班及び植木運搬の作業所が小金井市貫井北町1丁目1番2号の北町作業所に移転しました。

今後、社会貢献活動を通して地域社会に貢献し、地域社会からも頼られるシルバー人材センターを目指すと共に、事務所等の移転を機に情報発信の場として充実しイメージアップに努める必要があります。

また、新型コロナウイルス感染の終息が見通せない中、感染予防対策を取りながら新たな事業展開を模索する取り組みが課題です。

2. 事業実施状況（定款事項）

(1) 就業機会の開拓及び提供

契約金額は4億447万円、就業率は年間83.6%となりました。

ア 受託能力の増強及び多くの高齢者に就業機会を提供するため、入会勧誘を積極的に行い、年間入会者は81名となりました。

イ 民間事業就業拡大のため、事業部理事が継続契約発注者へシルバー人材センターのリーフレット等を郵送し、PRに努めました。

ウ 「事務局からのお知らせ」を毎月発行し、就業情報の提供に努めました。

(2) 労働者派遣事業

シルバー人材センター等労働者派遣事業（シルバー派遣事業）について、派遣業務は6件、派遣会員は20名でした。

(3) 研修

ア 施設管理業務等及び一般家庭を顧客とする新規就業会員を対象とした「接遇研修」を実施し、「接遇」の重要性の浸透を図りました。また、施設管理等業務に従事する3年目就業会員に対し、利用者へサービスを提供するという基本的な考

えを忘れず緊張感を持った就業をするよう接遇研修を実施しました。

(ア) 公共事業部門新規就業者接遇研修会 (出席 11 名)

(イ) 民間事業部門新規就業者接遇研修会 (出席 12 名)

(ウ) 公共施設等管理業務 3 年目就業者ステップアップ接遇研修会 (出席 20 名)

イ 地域班及び職班等の新任リーダーを対象に、リーダーとしての役割や留意・注力すべき点は何かを具体的な課題を設定し、討議形式の研修を開催しました。

(ア) 新任地区委員リーダー研修 (出席 9 名)

(イ) 新任職班長リーダー研修 (出席 15 名)

ウ 他団体が主催する各種講習会、研修会に参加した他、「家事援助班」による自主研修会を実施して、就業に必要な知識の習得や技能の向上を図りました。

(4) 社会奉仕活動

ア ふすま班による公共施設の障子張替え

イ リビングサポート班による市内児童保育施設 3 施設に木工玩具 3 種類を寄贈

ウ 使用済み切手を収集し、小金井ボランティア・市民活動センターへ持参

エ 子育て支援一円貨募金運動に参加 (職員一同)

(5) 情報の収集、提供及び普及啓発

ア 東京しごと財団主催の下、宮地楽器ホールにて「健康度測定セミナー」体組成測定会とタニタ健康セミナーが開催された。(出席者：一般市民 25 名)

イ 東京しごと財団及び第 5 地域シルバー人材センター主催の各種会合に参加し、高齢者の就業に関する情報の収集に努めました。

ウ 会報を年 3 回発行し会員、発注者、関係団体等に配布し、センターの活動状況を広報しました。

エ 「暮らしの中のお手伝い」のリーフレットを改訂し、全世帯及び関係機関に配布し、センター事業内容を周知しました。

オ 市報こがねいにセンターの事業内容を掲載し、センターの PR に努めました。

カ 市発行紙(高齢者福祉のしおり)、小金井新聞にセンターの広告を掲載し、入会促進、センター活動の PR を行いました。

キ 他団体主催の公開講座に参加し、センター紹介記事を掲載し周知しました。

ク センターホームページにセンター情報や就業情報を掲載し周知しました。

(6) 調査研究

- ア 月々の就業実態を分析・検討し事業運営の資料としました。
- イ 各種教室の受講者の意向調査を行い、教室事業の運営の資料としました。

(7) 入会・就業相談

- ア 事務所窓口及び電話により、一般高年齢者、家庭等からの就業並びに受注に関する相談に応じました。
- イ 4月から10月は、毎月第1・2木曜日に「入会説明会」を開催し、11月からは、毎月第2木曜日に「入会説明会・入会手続き」を開催し入会の促進に努めました。
(出席・122名)
- ウ 「就業に関する相談」を毎月開催し、会員からの就業に関する諸相談に応じました。
(申込・3名)

(8) 安全

就業の安全を確保するため「令和2年度・安全就業対策方針」に基づき次のとおり安全就業に取り組みましたが、傷害10件、賠償4件の事故が発生しました。

- ア 安全器具、保護具等の整備、点検
- イ 安全標語の募集8名28作品
- ウ 安全就業強化月間の設定(7月、12月)
 - (ア) 駐輪場、ふすま作業所への「安全就業強化月間のぼり」の掲揚
 - (イ) 配付救急箱等の点検と補充
 - (ウ) 安全標語ポスターの掲示
- エ 就業現場安全巡回の実施(7月と12月、各月21箇所)
- オ 地域班会議等諸会合での安全就業に対する意識の喚起
- カ 他団体主催の「安全就業推進大会」への参加
- キ 安全就業推進員を置き、会員の安全就業対策を検討

3. 管理・運営事項

運営体制の充実・強化

- (1) 会員の総意を決定する最高意思決定機関である総会を1回開催しました。
- (2) 理事会を13回(定例12回、臨時1回)開催し、総会で決定された事業を的確に執行しました。

- (3) 三役部会長等連絡会議を12回開催し、事業運営の基本的事項の調整や部会の意思疎通を図りました。
- (4) 専門部会を延10回、各種委員会を適宜開催し、事業の適正な運営と推進に努めました。
- (5) 各職班の会議等については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催の中止・延期の措置を取り、特に開催する必要がある場合は参加者を少なくして開催しました。
- (6) 入会式を開催し、新入会員に対し、会員として必要な心得及び地域班活動への理解を促し、基本理念の浸透及び会員意識の向上に努めました。